

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701005		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ和楽		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2132-1		
自己評価作成日	令和4年 2月 28日	評価結果市町村報告日	令和 4年 5月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 3月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心と信頼を軸におき、利用者様が安心して生活をして頂けるように、いつまでも自分らしく穏やかな日々をお過ごし頂けるよう心掛け、一人一人の個性や生活のリズムに沿い、信頼関係が築けるよう努力し、気配り目配り思いやりを持って支援を行っている。御家族様との信頼関係を保ち身体の報告は元より、日常の様子などの報告もかかさず行い、病気の早期発見に努め、また身体状態・精神状態の些細な変化にも目を向け、主治医報告により、病気の早期発見・治療が出来るよう努めております。利用者様1人ひとりに応じた支援を行う為、職員間での話し合いは月一回、または課題や問題が出た時点でその都度行い、ケア内容の充実に努めている。。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者と共に生活する中で潜在能力の持続することで生活が不自由になってくることを遅らせ、出来るだけ自身の持つ力を大切にケアが継続されています。今年は新たに統括が就任され、法人・事業所・入居者・家族それぞれを繋ぐ橋渡し役を努めていることで、それぞれの思いが通じ合う様子が見えました。入居者の高齢化・重度化やコロナ禍で以前のような活動的な生活を送ることが難しくなっているようですが、安心・安全に配慮したケアが行われています。職員面談では、入居者にしっかり向き合い、訴えをしっかり聞く日々のケアがあり、入居者の笑顔を喜ぶ様子を伺うことができました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人ひとりが事業所理念を共有し、利用者個人を尊重しその為の選択の機会と自由を提供している	法人・事業所理念は職員で共有しており、入居者と職員と一緒に生活する中で潜在能力を持続することで不自由になってくることを遅らせ、出来るだけ自分でしてもらえようケアに取り組んでいる。	職員面談ではそれぞれの思いでケアに取り組む様子が伺えました。統括就任を機会に法人・理念を振り返る機会を設け、理念がケアの礎であることを共有される機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の方々との交流は自粛している	例年、地域のストアでの買い物や学生の体験学習受入れ、デイサービスに訪問される地域住民との交流を行っている。	コロナ禍により事業所・入居者と地域とのつながりの機会作りが難しかったようです。落ち着いた際には、入居者と地域住民の日常的な交流に繋がる取組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験・福祉体験学習、また他の団体の訪問などを通し認知症への理解を促しているが、コロナ禍で活かされていない。地域の認知症の方を利用者として受け入れ、本人や家族と関わる事で地域の認知症ケアに貢献している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開いていたが、コロナ禍の中での開催は今自粛し、文書等での連絡・報告に留めている。	例年、2ヶ月に1回運営推進会議を開催しているが、コロナ禍のため資料の送付を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の住民福祉課や社協などと連携をし町の緊急対応品・備蓄の協力にも取り組んでいる。また、災害時には町の担当者と連絡を取り、協力体制を取る段取りを組んでいる。	役場や社協等とは日頃からの連携で協力関係を築いている。熊本地震以降、町の防災備蓄等の協力も行っている。今年度は感染症に関する情報交換もあり予防に取り組んだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	過去の研修会の資料の回覧等で知識普及に努めている。夜間の安全の為の施錠以外は自由に入出りできるようにしている	法人内各事業所のホーム長が集まる会議で毎月身体拘束をしないケアについて話す機会を持っている。職員間では過去の研修事例をもとに、身体拘束の有無確認、身体拘束廃止マニュアルの共有を継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料の回覧等を通し、高齢者虐待の内容を把握し、職員同士が注意し認識を高め合いながら毎日のケアを行うことで虐待または無意識の虐待が起きないように努めている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は、必要時は自主学習により権利擁護制度についての知識がある。必要と思われる利用者には利用を積極的に勧め、関係者と検討し活用支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や別の事業所に移動する時は、利用者と、必ず家族に同席して頂き、代表者が良く話を聞きながら十分な説明を行いながら理解と納得を得られたうえで契約を結んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会を通し、家族代表や役場職員・地域代表の方々に出席して頂き、意見や要望を聞き運営に反映させている。がコロナ禍の状況で今は外部からの感染に注意しており自粛しています	コロナ禍によりリスクレベルでの面会受入れの判断をしている。日中、ホーム長または副ホーム長が面会時の家族対応を行うこととしており、報告を兼ね意見を表しやすい関係作りを行っている。家族には毎月広報紙を送り、法人の思いや考えを伝えている。	長期に渡るコロナ禍で家族との面会が制限される中、毎月の法人全体の広報紙と共にホームでの暮らしの様子が分かるホーム新聞の検討を望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼やホーム長会議、毎月の研修会議の際に職員の意見や提案を取り上げて運営に一部反映させている	毎月各事業所(ユニット)職員が集まりモニタリングを行っており、その際に職員の意見や提案を聞く機会を持っている。毎日の勤務時にもホーム長又は副ホーム長が在席しており、職員は意見や提案を表す機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を目指す職員に対し、試験日は出張扱いにする等の支援を行っている。また、有給使用や欠勤のなかった職員には皆勤手当を支給して職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できるリモートでの研修には極力参加し、全職員に内容を開示している。代表者からの聞き取りで各職員の実際のケアや力量の把握は出来ており、業務内での指導は随時行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス対策の為、外部との接触は極力避けている状態にある		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には事前情報に目を通し、入所後は積極的に本人に合わせた声かけをおこない馴染みの関係をつくることで安心感を持って頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の契約や面会の際に家族の希望や思いをの聞き取りをすることで、信頼関係を築くよう努めている。また、いつでも連絡が取れる様な体制を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な情報を本人や家族、関係機関より収集し介護計画を立てることで本人や家族が必要としているサービスを展開していくように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハとして一緒に洗濯物たたみ等の作業をしたり、テレビや新聞を見て感想を言い合ったり、同じ生活者の目線で寄り添った関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に関わる情報を小まめに家族に伝えて、現在の状態を説明し、家族に理解してもらった上で利用者との関わりをもってもらうようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族へ電話を希望される場合、施設の電話を使えるよう支援している。思い出の場所・馴染みの店にも行ける体制は整っているが、今はコロナ過の為支援できていない	コロナ禍により従来のような面会受入れや隣接するデイサービス利用者等の交流、外出による関係継続支援は難しい状況であった。家族との関係が希薄にならないよう、できるだけ家族との電話やリスクレバルによる感染対策を行った上での面会等を受け入れてきた。	感染症予防の観点から入居者はユニット内での生活が殆どです。入居者のそれぞれの生活支援のため、対策を行った上での活動の工夫に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のできる雰囲気作りやお互いに気兼ねなく生活できる場をつくり、利用者同士が孤立したりトラブルになることなく関わりあえるよう支援している		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも町で本人や家族に出会った時は積極的に声掛けをし、困った時にはいつでも相談するように伝え再度の支援につなげられる様に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話可能な利用者については、日頃の会話や訴えから本人の思いや希望を把握し、意志疎通の困難な方については今までの生活歴や好み、わずかな表情や動きから本人の思いを汲み取るように努めている	職員は入居者との寄り添いの中で、表情などにより思いを汲み取っている。思いを表すことが難しい入居者には日常会話の中で思いを汲取るようにしている。	近年高齢化もあり思いを表すことができる入居者が少なくなった様子が聞かれました。声掛け等により、入居者の選択の機会を作る等、希望や意向を把握する取組みの継続に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や環境等が記載された情報ファイルをもちいて不明な点は本人・または家族に聞いて把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に大きな変化があった時は、担当職員がアセスメントを実施し、情報収集を積み重ねることで常に現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をよく把握し、考慮したうえで介護計画を作成するとともに、月1回のモニタリングで提案された意見があればそれを加え、常に現状に則したものになるようにしている	入居者一人ひとりの担当職員がモニタリングやケアプランに沿った評価を毎月行っている。それらの内容や他職員・ホーム長、家族や関係機関等の意見を併せて介護計画としており、結果は職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には各項目毎の達成度や出来なかった理由を記載するようにして、モニタリング時にはそれをもとに話し合い情報を共有するとともに介護計画の見直しを行い、実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム、有料老人ホーム、通所介護などの複数の事業所を有しており、必要時には協力体制を取ることで、より柔軟に本人や家族のニーズに対応できるように努めている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴を把握し、事業所にて出来る活動を工夫して継続して安心して生活できるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調や様子を観察し、異常があればかかりつけ医に報告・受診している。月に一度、個人に応じた主治医の往診もあり、やりとりを通じた信頼関係を築いている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現状かかりつけ医は入居者により様々であるが、往診も多い。緊急の場合の搬送医療機関もある。歯科医も往診を受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師に相談できる体制をとっており、介護職は利用者に異常がある場合、すぐに相談できる環境を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、利用者サマリーを活用し情報提供している。定期的に地域連携室と連絡を取る等の関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化・終末期に入った場合は、本人や家族と話し合って意向を把握すると共に施設で出来ることを説明・理解してもらい。医師と家族の話し合いの上で方針を決め関係機関と連携して支援している	入居時に重度化や終末期に関する事業所の対応・方針について説明している。実際にその時期を迎えた際には主治医と相談しながら支援を行っている。看取りの際には、コロナ禍であっても家族面会を受け、最期の時間を過ごして頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は対応マニュアルに沿って対応できる体制を実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を発生させないことを第一とし、火の扱いには細心の注意を払っている。年1回の防災訓練で、消防署の指導を受けながら避難訓練や消火の訓練を行っていたが、コロナ禍の今、防災訓練は実施出来ていない	日常生活の中で火災予防を第一とし、コンセントの掃除を定期的に行うようにしている。コロナ禍でもあり、事業所全体での避難訓練は難しい状況であった。町との協力で、災害時備品を敷地内に設置している。	コロナ禍ではありますが、災害の予想は難しいものです。もしもの時に備え、避難経路の共有・確認、入居者の避難について等話合う機会作りに期待します。

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーを損なわない言葉かけや対応ができるよう努力している。また、他スタッフへの指導やアドバイスも行っている	入居者の尊重とプライバシーの確保について配慮したケアを行っている。日々のケアの場面で気になる事例がある際には都度ホーム長より口頭で伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に表情や動きの変化に気を配り、言葉でなくても本人の希望や思っていることが汲み取れる場面がつかれるよう心がけ、話しやすい場面が持てる様、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、個人の希望、またはそれ以外の時間の利用は本人と相談しながら行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・洗面用のタオルを準備し、整髪剤を使用して、身だしなみ極力自力で行ってもらっている。定期的にヘアカットや爪切り等も実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が食べれないもの嫌いなものに対しては代替品を提供し、食べたいものがあれば家族に相談して購入している。	季節の食材等を使用し、職員手作りの食事を提供している。日々の食事作りには入居者の関わりも難しくなってきたが、干し柿等保存食作り等楽しみごととして継続している。誕生会には赤飯やケーキ、季節行事の献立やリクエストメニュー等、工夫をこらしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握・記録を行い必要があれば水分強化したり、水分制限をして1人ひとりの状態にあわせている。栄養分での不足分は栄養補助食品を利用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、すべての利用者に声掛けして口腔ケアを実施している。自分で出来ない方には介助を行い必要に応じてブラシを選択している。うがいのできない人にたいしてはガーゼでの拭き取りを行い状態にあわせたケアを行っている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入により利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導をおこなっている。段階的にオムツやパットの種類を選びその人に応じたものを使用している	入居者一人ひとりの排泄パターンによる声掛け等でトイレ誘導を行い、できるだけ昼間はトイレでの排泄を支援している。夜間は必要な介助の程度によりそれぞれに合わせた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、牛乳の提供や運動の声掛け、腹部マッサージ等をおこなっている。またかかりつけ医とも連携をとることで下剤を使用し排便コントロールをおこなっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は設定し実施できるようにしているが、時間帯の考慮・体調不良時は振替日を設けたり、入浴日以外であっても希望があれば入浴支援している	週2～3回の入浴を基本としており、希望があれば毎日入浴可能である。入居者の当日の予定等で午前・午後とも利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録や申し送りで職員間の情報交換を行い休息や睡眠のパターンを把握共有している。また、傾眠や休みたいと希望があれば居室で休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬時情報はいつでも見れるようにファイリングし、看護師や薬局・医師との連携に努め、処方薬の変更があれば記録や申し送りを行い、情報共有を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の会話や家族からの情報で、好物や趣味を把握し、出来る限りの支援をおこなっている。またそれまでの生活歴を考慮し生活リハビリとして、その人ができる役割をしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出や散歩等、声かけをおこない本人が希望すれば職員の支援で出かけられる体制がとれているが、コロナ感染予防の為、散歩に留め、人が集まる場所には行かないようにしている	コロナ禍前までは近隣店舗への買い物やドライブを行っているが、現状は敷地内の散歩等で外気を感じる支援を行っている。車椅子使用の入居者も散歩により外気を感じる支援を行っている。	

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力を考慮したうえで可能な利用者には規定額内でお金を所有して貰っている。金庫で管理している預かり金も本人や家族の意向により使用し、明細は毎月キーパーソンに送付し明確にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話したいとの希望があれば施設の電話にてかけてもらっている。利用者宛ての電話や手紙は規定の手順にて取り次いでいる。読み書きができない利用者には代読・代筆を行い交流支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やトイレの臭いに気を配り、換気を常に行っている。寒さや暑さを感じさせないように温度調節を徹底し、季節のものの装飾を工夫したりして身近で感じてもらえるよう工夫している。また、清掃・消毒は時間を決めて行っている	感染予防から換気・室温・湿度に配慮しており、日中の生活の中でも入居者が密にならないよう配慮している。居室に入居者がいない時間帯には窓を明け換気している。時間帯を決め、清掃・消毒を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間である居間やソファや食堂の椅子は、利用者がいつでも自由に座れるようになり一人ひとりで新聞を読んだり、数人で談話したりして本人が選択し過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には本人や家族の希望にそって、自宅で使っていたものや好みの物など、好きなものを持ち込んでもらっており、自分の家と変わりなく過ごせるような雰囲気作りをしている	ベッドと筆筒が備え付けられている。入居時に出来るだけ使い慣れた生活用品の持ち込みを家族にもお願いしている。面会を受け入れられる時期には部屋で過ごす場面も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーであり、廊下やトイレ・浴室などには手すりを設置している。また廊下や食堂も安全に離合出来るよう充分な広さを取ってあり安全に自由に行動できるようにしている		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあそ和楽

作成日 令和 4年 5月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有	理念を共有し、それを基にケアに励むことでケアの質の向上を目指す	月一回開催の各部署のモニタリングにて理念の再確認を行う	2ヶ月
2	20	感染対策を行ったうえでの活動の工夫	コロナで出来ていなかった個人に合ったお出掛け等の活動の実施	感染対策を講じた上での行事の計画	3ヶ月
3	35	災害時の備えの確認	災害時の避難経路の確認、または防災用具や備蓄の再確認を行う	各部署開催でのモニタリングにて災害時の避難手順の再確認を行う	2ヶ月
4					
5	35				

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。